

OTK
支える

No.38

大阪府重症心身障害児・者を支える会
全国重症心身障害児者を守る会
大阪支部

全国重症心身障害児者を守る会 平成15年度近畿ブロック研修会



山中 伸一氏(やまなか しんいち)
全国重症心身障害児者を守る会
近畿ブロック長

全国重症心身障害児(者)を守る会 近畿ブロック研修会開催

「福祉施策の転換期を迎えて」
去る、平成十六年一月十七日(土)に大阪国際会議場において、全国重症心身障害児(者)を守る会近畿ブロック研修会が開催されました。記念講演には西宮市社会福祉協議会障害者生活相談・支援センター「のまネット西宮」センター長 清水 明彦氏を迎え、「重症心身障害児者を地域で支えていくには……」のテーマで御講演いただきました。二、三名の参加者の中、盛大に開催することが出来たため、当日が阪神淡路大震災の記念日であったため、参加者全員による黙祷が行われました。山中 伸一 近畿ブロック長の挨拶と事情報告の後、守る会本部運動推進部の國仙和男氏より御講演をいただき、各支部よりの活動報告がなされ、清水氏の記念講演という流れでした。支障費が導入され、様々な面での変革期にある今日、重症心身障害児者にとっても、地域での暮らしはもとより、施設で生活する上においても多くの問題を抱えていることがわかりました。支援費制度が単に費用面での問題ではなく、本当に障害児者の生活を支援するものになるのかどうかを見極めなくてはと改めて感じた一日でした。

守る会三原則
★決して争ってはいけない、争いの中
★親も重いものがある主義は無い、争い
★個人がいきなると主張があつて
★党派を超え、者運動に参加する者は
★最も弱いものを一人も漏れ無く守る



清水 明彦氏(しみず あきひこ)
西宮市社会福祉協議会障害者生活
相談・支援センター「のまネット
西宮」センター長

全国重症心身障害児(者)を守る会 平成15年度 近畿ブロック研修会に 参加して

去る一月十七日、全国重症心身障害児(者)を守る会の平成15年度近畿ブロック研修会に参加しました。まず、大阪国際会議場の立派さにびっくりしました。一〇階の会場は約二六〇名の参加者で、とても賑やかで熱気があふれていました。参加者はご父兄が多かったように思います。どのお話しても父兄のこれまでの努力の重さ、熱い思いがあふれており、印象深いお話しをたくさん聞かさせていただきました。また、自分自身の努力も反省も痛感いたしました。その中から、いくつか報告します。

今年度は支援費制度が施行されました。施行後寄せられた問題点として「地域格差の問題」、市役所の窓口職員が、重症心身障害児(者)のことを理解していないこと、ホームヘルパーの方もまだ経験がないこと、また、ショートステイがまだ十分に利用が早い者勝ち状態になっていることがつた」とのことです。また、今春の国立療養所の独立行政法人への移行では、国のプロローグがなくなることで、リストラや非常勤職員への移行などで職員の配置が薄くなる心配があるとのことでした。支援費制度を、高齢者の介護保険に組み込むかどうかの議論も始まっていますとのこと、国の財政の厳しさが、実際にサービスの低下という形で反映されかねない状況になってきているというご意見を、どうでしょうか。この厳しい状況に対して、守る会本部運動推進部・國仙さんは、「在宅サービスについても新しいサービスは今後なかなか通らないだろう。それならば、父母としては、地域の市、民の共

感を得る努力をしていく、つまり障害者以外の方の問題にも関わっていく、そこで自分たち障害者の問題と社会の二つの問題として他の人にも理解して貰えるようにして、市民の後押しでサービスを得ていくべきではないかとのお話しでした。私は「すいません、広い視野から考えてはなあ」と感動したのでありますが、隣の席の行動隊のある子供の母という方が、「そんなん言われても忙しくて、とてもそんな時間ないわ」、他の人は「障害者やその家族以外」暇そうやけど」とおっしゃっていました。確かにそれこそそうです、と思いました。

國仙さんは、また「いい施設を作るには、親は親、施設は施設(職員)、地域は地域で努力して、一緒に作っていくことが大事だ。そのために、親は、子供にどんな生活させたいかを具体的に思い描いてみるのが大切ではないか。それに向かって親は努力しなければならぬ」とのお話しでした。私たちが職員は、そんなご家族の思い、努力をしつかり受け止めていきたいと思えます。ホッパ(四天王寺和らぎ苑)の通園事業のご家族様にも、ホッパのサービスにに対してどんなご意見をくださるかと、職員とご家族様と、もっとよいサービスができるように家族様といと思います。

他にも、各支部の現在までの経過のお話しはそれぞれ全く違った状況のなかでのご苦労が語られました(例)四井でも微粉に達することに感じました。また西宮の青葉園のお話しなのですが、先端を行く事業内容の聞きすぎでまぼろしの内容になってしまいました。お許しください。

四天王寺和らぎ苑 中 城

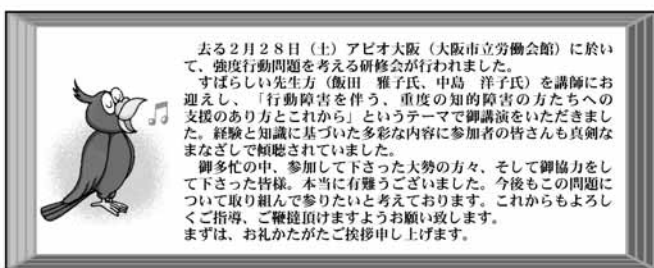
介護に役立つアイテムの御紹介

除菌・消臭剤

家庭での介護で衛生や臭いは非常に気になるものです。しかも、安全性は重要なポイントです。現在、支える会では乳酸菌や酵母菌を主体とした除菌・消臭剤を取り扱っています。効果はモニター等をお使いする形でアンケートをとり、良い反響がありましたので取り扱うことにしました。

- 品名:エコウイン21
- 金額:3,000円(1リットル)約10倍(約10リットル)に希釈して使用
- スプレー容器 =250円(自費付)

10倍希釈で
約1リットル当
り300円と驚き
のお値段!ハイオ
クで安全に除菌
消臭!



強度行動問題を考える研修会に参加して

秋の杜 平野 貴久

二月二十八日(土)、大阪市森ノ宮のアビオ大阪にて、「行動障害を伴う、重度の知的障害の方たちへの支援のあり方とこれから」とをテーマにした研修会(大阪府重症心身障害児・者を支える会主催)が開催された。

長年にわたり強度行動障害研究にかけて第一人者である弘済学園の施設長の飯田 雅子先生と、トクタワーにて強度行動障害を伴う自閉症や関連した障害の確かな診断と関わってこられる旭川荘療育センターの中島 洋子先生が講師ということで、日常行動障害を伴う方々の日中活動を担当している支援者の目として、対応の視覚や必要な知識の獲得を研修の目標として対応させたいという思いを、両氏の講演の主な内容を整理すると以下の通りとなる。

①強度行動障害支援のあり方
 ②障害特性の理解 特に自閉関連障害の医療的対応も含めた理解
 ③支援者としての視点・環境の作り方
 ④連携の必要性
 ⑤施設機能のあり方
 ⑥今後の課題

それぞれ項目についての具体的な内容は以下の通りである。

①強度行動障害支援のあり方
 強度行動障害とは状態像であり、環境や要因への働きかけで変わるということ。

また、本人が変わるような体制を整備すること、逆に支援者が障害特性を理解すること、強度行動障害を伴い出してしまっても対応すると強度行動障害特性の理解(特に自閉関連障害の医療的対応も含めた理解)

強度行動障害を示す重度の知的障害の方々や自閉関連障害をもっている。また、精神科的合作症を発症しているケースが多い。主な精神科合併症として、ADHD、チック障害、なかなでもトウレット障害、強迫性障害、うつ病等がある。

特に強度行動障害特別支援事業の対象者の約8割以上が自閉症を伴っており、かなりの確率でトウレット障害を伴っている。それぞれの障害特性を理解すること、特異的な行動を理解しうえて、観察し、医療と連携すること、適切な診断、適切な薬物投与が可能となる(ただし、薬物療法は目的は脳の機能の改善であり、生理的機能の安定である。行動を改善するための療法ではない)。また、療育のアプローチの方法も、障害特性を理解することで見えてくる。

③支援者としての視点、環境の作り方
 行動障害を伴っている「なぜ」という視点、行動には必ず意味がある。
 記録・考察する(単なる記録でなく仮説を立てて考察する。PLAN・DO・CHECK・REPEATのサイクルを繰り返して)として接する姿勢 ↓ 穏やかな信頼関係の構築
 環境の作り方については空間のとり方を考える。場所と活動を明確化する、構造化する、担当をこなす。

(行動障害の方への行動改善療育プログラム)

構造化された環境設定 ↓ 医療との連携(薬物療法も含めて) ↓ 適切な報酬をさげた学習的なりわい ↓ 安全な環境整備 ↓ キーパーソンを中心としたい雰囲気作り ↓ 失敗経験を無力感から成功体験を増やす ↓ コミュニケーションで情報提供し自ら実行につなげる ↓ セルフコントロールできるようにする。

④連携の必要性
 施設内での連携、担当者ひとりでは抱え込まず施設全体で支える体制を整備すること、統一されたい。

医療との連携、連携が必要、そのためには医療的な知識、病理解や薬物投与について、今行動の特定についての知識が必要、障害特性に合った環境を設定し、観察し、ドクターに報告することで医療的課題が明確となり、薬物療法についても焦点が絞られやすくなる。

⑤施設機能のあり方
 学校との連携、強度行動障害が発症した時期として最も多いのが学童期である。しかし、学校教育と専門的療育との連携が欠如している。行政との連携、行動障害を示す方々の地域生活支援や将来の支援を考える上で行政との連携は不可欠。しかし、丸投げが多いのも事実。

以上、生涯にわたり一貫して移行できる療育プログラムを確立して急務。

入所施設は地域の障害のある方の支援の核となら



微生物と私達の生活環境のおはなし -第1回-

一般的に微生物と言えば大多数の方は人間に悪い影響を与えるバイ菌を想像されるのではないかと思います。もちろん人体を腐敗にさせる 0-157 の様な有害菌もたくさん私達の回りに生息していますが、これとは逆に人体に良い影響を与えてくれる有益菌も自然界にはたくさん生息しております。最近テレビ等でたびたび解説されていますが、酸化和抗酸化という言葉が聞かれた事はありませんか? 人体が酸化されると病気になります。物が酸化すると腐敗し悪臭が出る。人体が抗酸化になると健康になる。物が抗酸化になると腐敗せず発酵し、悪臭ではなく発酵臭に変わります。これらの働きはすべて目には見えない微生物が関わっています。

今回は私達の身近な所で起きている有益菌と有害菌の酸化・抗酸化の働きを紹介します。

有益菌の抗酸化作用

発酵系 (抗酸化)

腐敗系 (酸化)

発酵臭 ← 納豆 ← 納豆菌	大豆	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
発酵臭 ← ヨーグルト ← 乳酸菌	牛乳	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
発酵臭 ← みそ ← こうじ菌	米・大豆	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
発酵臭 ← しょうゆ ← しょうゆ菌	大豆	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
芳香 ← パン ← イースト菌	パンの生地	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
発酵臭 ← 有機肥料 ← 多種類の有益菌	生ゴミ	→ 有害菌 → 腐敗 → 悪臭
新品同様 ← ← 抗酸化質	金庫	→ 酸化物質 → → → サビ

この様に目には見えない微生物が私達の生活の場で深くつながりを持っています。特に有益菌と呼ばれる菌は人間の消化器官の中にも100兆を超えるとされており、それらは又善玉菌と呼ばれるおります。これらの有用微生物は現在、植物から医学まで多くにわたり活用されております。

次回からそれらの分野での活用の有様を紹介させていただきます。



大出力承ります。

垂れ紙、ポスター等を大型カラープリンタより印刷致します。
イベントやお知らせ等の使途の目的にお気軽にご利用下さい。

- ☆大きさと色数により値段が変わります。
- モノクロ1色=610ミリ→1,000円/m、910ミリ→1,500円/m
- カラー2色=610ミリ→1,500円/m、910ミリ→2,000円/m
- フルカラー=610ミリ→2,000円/m、910ミリ→2,500円/m

基本 (610又は910ミリ) x O O x メートルです。ご不明な点は支える会事務局までご相談下さい。

ねばらず、在の方々のフォローを重視していかねばならず、家庭のレスパイトの二つともにも必要が、家庭、家族の、

⑨今後の課題
今後必要とされるべきこと、教育の方から福祉教育のサポートが、文部科学省より特別支援教育、連携の必要性が求められようになってきた。学校、家族、発酵機関との連携は不可欠。早期診断・早期療育、医療の中でも専門的ドクターが少なく、医療間の連携が必要、保健師と発酵機関との連携も必要、家族が障害特性を理解することが必要、適切な対応を家族に助言する機能が必要。早期療育が行動障害を防ぐための解決となる。

今研修に参加させていただいて最も感じたことは、行動障害を示す方々のこと、障害特性を含めて専門的に理解している機関があまりにも少ないという現実である。

「速度行動障害」という言葉であり概念は日本にない。この間、欧米で障害のある方に対して、早期診断・早期療育から児童期・学齢期に成人期にいたるまでの一貫した療育システムが確立されており、専門家がきっちりと役割を果たしているため、行動障害が「速度」といふ状態になることは有り得ないとのことである。これを聞いた時、自分の中で衝撃を感じたことを覚えている。それは、障害特性を理解すること、例えば、単に自閉症、障害特性を理解するだけでなく、関連障害(ADHD、トリーレット障害等々)の理解、薬物

療法も含めた総合的知識や観察の視点、療育的アプローチの方法等、知識の習得や接し方を磨くことが不可欠であると感じた。まさに、引き出しを多く持つことが大切であると感じた。

次に、連携の必要性である。施設内でのチームアプローチの重要性、医療との連携、各専門機関との連携が必要であると感じた。しかし、関係機関との連携は実際のところなかなかできていないというのが現実である。そのためには、まず、私達、施設関係者間でこの機会を持つことで、行動障害の方への対応についてのネットワーク作りをコツコツと始めることから感じた。そして、関係機関が集まる場を持つこと、行動障害を示す個別の事例に対して、障害特性を含めての情報を共有すること、各専門性を生かした形でのケア会議の活用を創っていくことが大切と感じた。

講演の最後で、両先生が「行動障害を示す方々のことを個別に検討する必要がある」とおっしゃっていたことについて、あまでも私見であるが、二つの解釈をした。一つは、前述した通り、我が国は生涯にわたり一貫した療育システムがまだまだ立って立っていない。これを個別に検討し整備すること、そして、早期診断・早期療育の体制を整備し、行動障害の予防へとつなげるという意味でおっしゃったと感じた。

もう一つは、今年より介護制度を開始され、崇高な理念のものとスタートしたものの、年も経たないうちに財源確保が困難となり、「救済」の中国語では、施設解体や支援費制度と介護保険との統合

といった動きが相次いでいる。その中で最も課題となっているであろう対象が、強度行動障害の重症心身障害の方々の支援と行われている。この影響の中で、現在の入所施設が、強度行動障害の方の受け皿となり、行動改善に取り組みべき、ことである。確かに、一定期間の療育改善という意味では、入所施設がさらなる専門性を蓄え、その役割を果たすその通りである。しかし、その後の地域生活への移行体制の整備が何より不可欠である。まず、日中活動の場の確保や、地域生活支援サービスやセンターの充実、ケアマネジメントの整備等、行政が中心となり、行動障害の方々に対応できようだけの体制整備の再構築が求められる。行政、通所施設、各地域生活支援センター等、「地域」も専門性をもつべきである。

「財源」という大きな課題があるとはいえず、強度行動障害の方々の重症心身障害の方々の支援を基準に考え、地域生活の実現ができれば、真のノーマライゼーションの実現が可能になるのではないかと考えている。こういった強度行動障害の方々の政策の議論に向けて、私達、現場から発信し、国レベルの議決に巻き込まねばならないという、国レベルは、おっしゃっていたのではないかと感じた。

最後に、今研修の参加は、私自身にとっても新たな知識として得たことや、考えさせられる点が多々、非常に内容の濃いものであった。ご多忙の中、様々な事例も含めて、わかりやすく、そして、熱く、謙虚にいただいた飯田先生と中島先生に感謝いたしますと共に、主催された関係者の方々に厚くお礼申し上げます。



大阪府重症心身障害児・者を支える会 総会、記念講演



とき 平成16年6月4日(金)

会場 たかつガーデン (大阪府教育会館)
 ■〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7番11号
 ■TEL 06-6768-3911 FAX 06-6768-3170
 ■近鉄上本町駅から(徒歩) 約3分
 地下鉄谷町九丁目駅から(徒歩) 約7分

主催 大阪府重症心身障害児・者を支える会

協力 四天王寺さんめい苑さんめい会

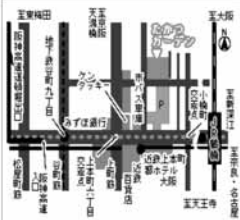
講師 社会福祉法人愛徳福祉会
 南大阪療育園 理事長 梶浦一郎氏
 「重症心身障害児者の地域生活のために」(仮題)

日程 午前11:00 総会(10:00~受付)
 午後1:00 講演(~3:00)

*講演の申込みは事務局宛に郵送又はFAXで
 お願いします。

*会員の方には別紙にて御案内申し上げます。

別室にて、障害をもたれたご本人を対象とするビデオ鑑賞やアロマ体
 験などの催しを企画しております。(要申込)



オムツ販売 始めます



大阪市の指定を受けました

支える会流の3つの安心

1. お安い値段設定。
2. 利用者にあった商品を一緒に探します。
3. ご注文の商品を配達します。*
*大阪市内のみ。

◎埋め込みの取扱商品メーカーはリブドゥ、白十字の2社です。

大阪府重症心身障害児者を支える会

TEL 06-6624-2555

FAX 06-6624-2565

担当: 清水

居宅介護事業所からのお知らせ

事業所: 特定非営利活動法人
 大阪府重症心身障害児者を支える会

支える会は、重症心身障害を持つ方々の家族を中心に結成された当事者団体で「どんなに障害が重くても地域で生きられる、一人も漏れなく守る、支える」をモットーに立ち上がりました。

事業内容: 身体介護 家事援助 移動支援 日常生活支援
 (月曜日~日曜日 0時~24時)

受付時間: 9時30分~17時30分
*電話番号による連絡は、活動時間外もお受けいたしております。(転送)

主たる活動地域: 阿倍野区 平野区 東住吉区 住吉区 中央区
 天王寺区 浪速区 城東区 住之江区

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町5-15-2-8
 育徳コミュニティセンター内
 TEL: 06-6624-2555 FAX: 06-6624-2565 担当: 山村、吉村

「パパさん募集します!!」

熱意のある方、車の運転ができる方、土日を中心に活動できる方、歓迎します!

*登録については履歴書と資格証明書が必要です。
 時給1,200円~

「支える会」事務局

〒545-0021
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-2-8 育徳コミュニティセンター2階
 大阪府重症心身障害児・者を支える会 会長 鈴木 祥子
 TEL 06-6624-2555 FAX 06-6624-2565
<郵便振替> 00930-9-69598

支える会ホームページのご案内

全国・各地へ
 リンクあり!

ドメイン名 <http://www.sasneru.or.jp/>
 メールアドレス osaka@sasneru.or.jp
 ◎様々な御意見・御質問や情報をメールや掲示板にお寄せ下さい。

編集後記

風靡る爽やかな季節を日々感じています。気温が暖かくなる一方、背筋が寒くなるような事件が毎日の様に報道される日々。しかし、私達ほどのような時代でも命の尊さは変わらぬと確信しています。今年では全国重症心身障害児(者)を守る会は四〇周年を迎えます。もっとも大切なものを世の中に発信出来るように改めて初志貫徹の思いです。

編集委員一同

編集・責任者

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町5-15-2-8
 育徳コミュニティセンター2F
 TEL 06-6624-2555 FAX 06-6624-2565
 運営委員長 鈴木 祥子
 郵便振替口座 〇〇九三〇-9-69598
 大阪府重症心身障害児・者を支える会

発行所 大阪府障害者団体定期発行物協会の

〒545-0021 吹田市千里山丘6-1-27-11

定価 五〇円

(会員の方は会費の中に含まれています)